

5.人と文化の育成

ここでは、各計画の継続および実現にむけて、具体的な条件の整理と、関係各機関への要望・調整事項の整理を踏まえて、計画案の提示を行います。

1.セピア色の写真展

- 1) セピア色の写真展のためにすること

2.芝居小屋の復活～芝居小屋とは？

- 1) 芝居小屋として活用する場所
- 2) 出しものを考える
- 3) 芝居小屋のイメージ

3.伝統工芸の活用

- 1) まちなみ活かす
- 2) 伝統工芸を知る－実演・販売

4.品川グッズの開発

- 1) 今も残る品川グッズとは
- 2) 品川グッズを考える
- 3) 開発の条件
- 4) 販売の見通し

5.ジュネーブ市との交流

- 6.東海道53次宿場まちネットワークとの交流

セピア色の写真展とは、わたしたちのまちの記憶（ある時代の風景・暮らし・人）を呼び起こし、共にまちの未来を考えていくために開くものです。時がたつとともに、昔の風景や物語は風化してしまいます。ましてや品川周辺の開発が進められ、新しい変化の波が押し寄せる中、今のうちにまちの人たちが持っている古い写真や昔話をわたしたちの手で収集し、次の世代へ確実に引き継ぐためにしっかりと保管することが大切です。

北品川では、その考えのもと写真展が開かれ、すでに写真集も発行されました。南品川でも活動が進められつつあります。さらに今後は、この活動を品川宿全体としてしっかりと続けていきたいと考えます。



北品川で刊行された
「セピア色の品川」

北品川で開かれた「セピア色の写真展」では、まちの有志によって、写真集めから複写・編集・発行までを精力的に進められました。今後、南品川、そして品川宿全体としてまとめていくためには、協議会をはじめとするまちの人々の協力が不可欠です。

以下にこの歴史の記録と継承を進めるためにわたしたちがやらなければならぬ事柄を示します。

●写真の収集

まちに広く呼びかけて収集する。借りた写真是確實に返却できるように注意して扱う。

●昔話の収集

昔の物語を知っているお年寄りから伺う。
「昔話を聞く会」を催して生の声で伝える。

●写真の複写

写真是全て複写を行い、オリジナルの破損を防ぐ。

●写真の保管

北品川の写真展の写真是パネルに貼ったままなので、ファイル化する。
ネガの保存は専用のケースに入れて厳重に保管する。
マイクロフィルム・フロッピー等による保管も考慮する。

●昔話の記録

話はテープと文字の両方で記録・保管する。

●写真展の開催

写真展はまちのイベントに合わせて開催する。
単独開催の場合は1週間程度が望ましい。

●写真展のPR

写真展を開催するにあたっては、マスコミの協力等をあおぎながら広くPRする。

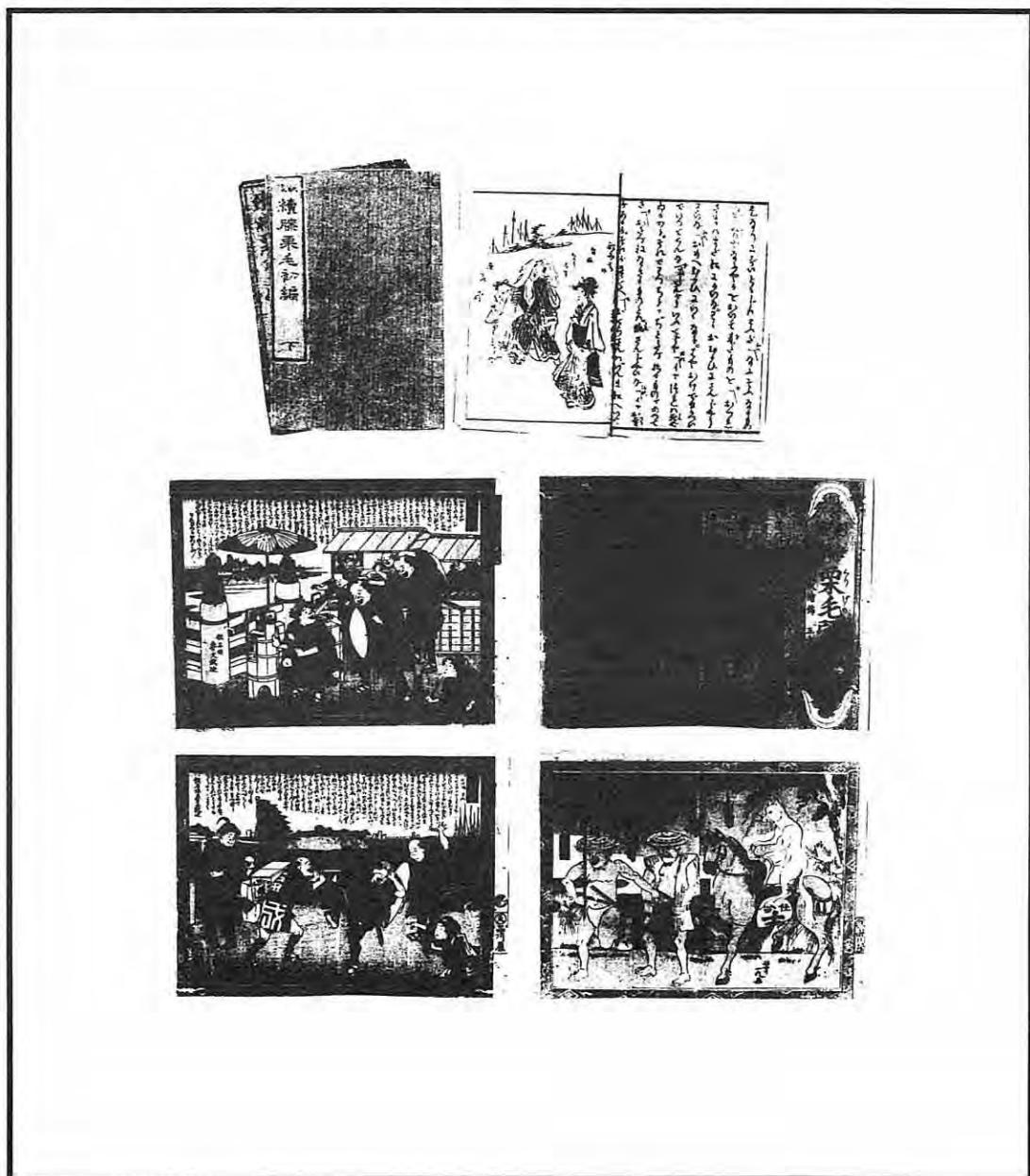
－平成7年度実施予定のおやすみ処では、写真展の開催が可能です。

江戸時代の東海道は、様々な地域の人々が行き交うために様々な文化の通り道でした。そして宿場町はその文化の交流する中継地だったといえます。様々な文化と触れ合うことでさらに独特なまちの文化を発進していたのです。

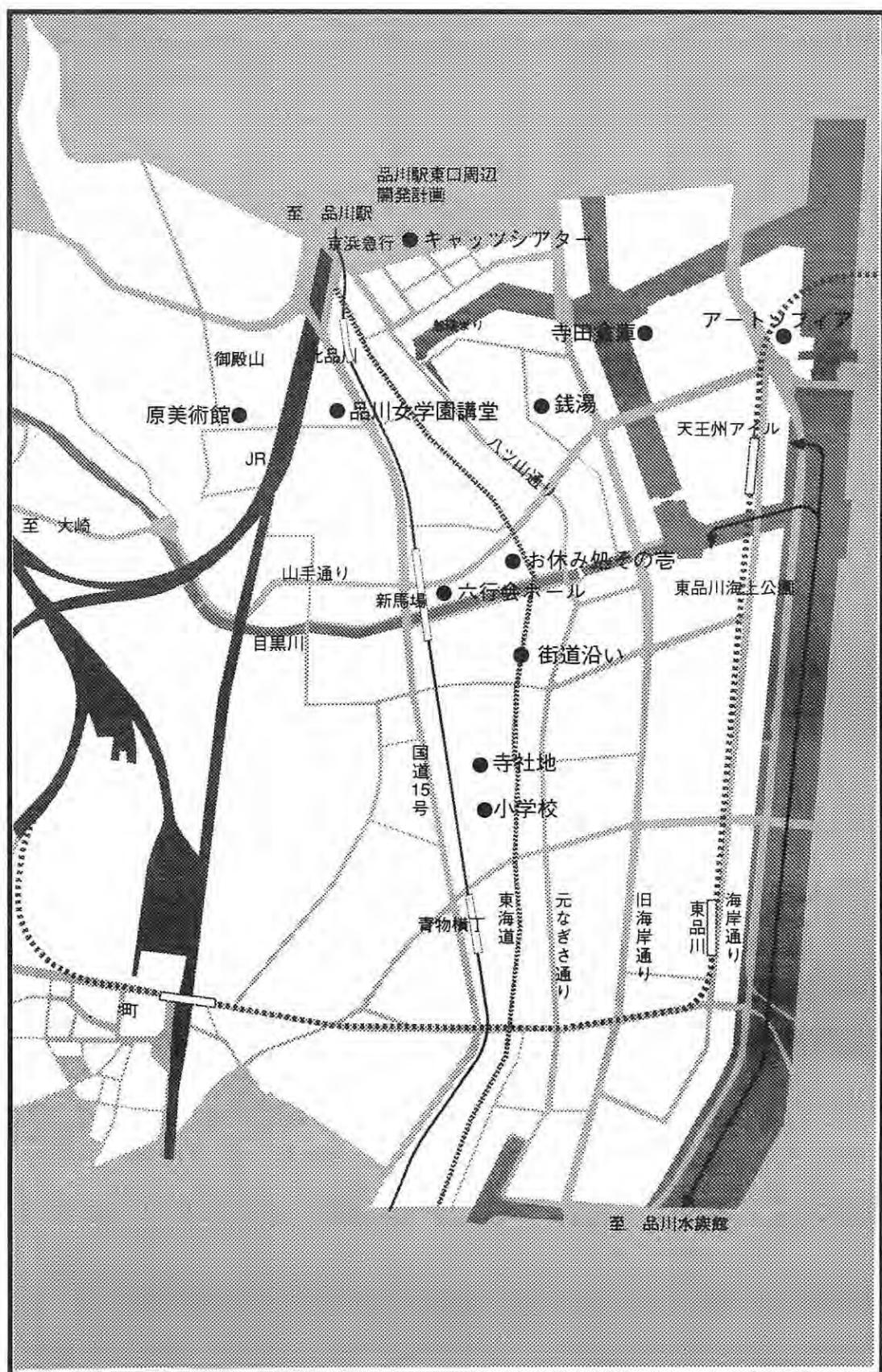
現在の東海道旅人には往時のような旅人はいませんが、わたしたちのまちの周辺では、新しい時代の文化が芽生えつつあります。現代の宿場町としてわたしたちの文化をより豊かなものにしていくためには、周辺の文化に注意をはらいながら積極的に活用していく姿勢が大切です。と同時に、新しい文化の陰に忘れされそうな伝統芸能（芝居・落語・舞踊など）や伝統工芸も品川宿の歴史を支える重要な文化として守り育てていきたいと考えます。

そしてまちの周辺とともにまち独自の文化発進の場所として、気楽に楽しめる「小屋」をつくることも目標の一つです。

また、同事にわたしたち自身がこのまちの魅力に改めて気づき、そしてより多くの人にその魅力が伝わっていくよう、このまちの暮らしやまちづくりを素材にした小説や映画・音楽をつくっていきたいと考えています。



わたしたちのまちの周辺には、様々な開発とともに多くの文化施設ができるつつあります。わたしたちは、これらの施設をまちの文化を育む場所として積極的に活用していこうと考えています。また、新たに整備するお休み処や将来的なまちの芝居小屋までを含めて、まちの芝居小屋としていこうと考えます。



芝居小屋は単に芝居を行うのみでなく、ひろくまちの文化の育成と活動の場でありたいと考えます。したがって出しものへ特別な制約をすることなく、幅広い活動を期待します。

また、まちの文化はなんといってもお祭りです。お祭りにまちの気分をつなげていくためにも（資金面においても）芝居小屋は祭とつなげて考える必要もでてくるでしょう。

●位置づけ

常設小屋 仮設小屋 イベント（まつり）

●時代性

江戸 → 明治 → 大正 → 現代 → 未来

歌舞伎
落語
新派
映画
サーカス
昔話
おはやし
アングラ
サークル活動
パフォーマンス
踊り
アート
学校開放
生涯学習

●場所

きゅりあん

天王洲アートソフィア

キャッツシアター

六行会ホール 町会会館

コミュニティ銭湯

寺社境内

お休み処

街道沿い

寺田倉庫

品川女学院

学校開放

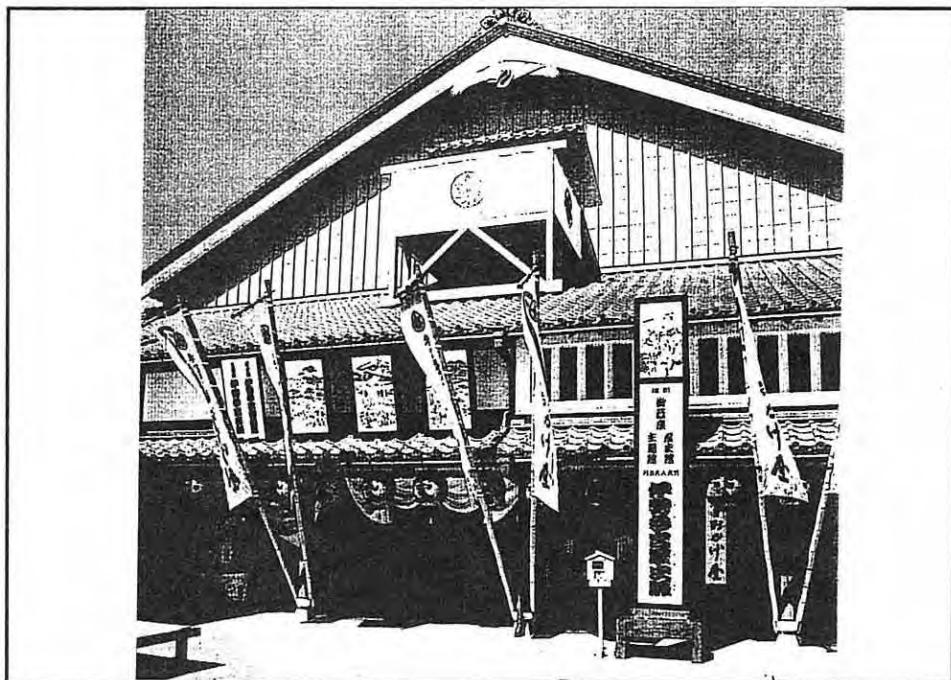
●企画・運営

- ・まちの文化の象徴であるお祭りにつなぐイベントとして年間を通してつないでいく。
- ・自主的にやりたい人に、まちの内外を問わず広く門戸を開く
(まちでの可能性を広くPRする)
- ・場所の提供を集める(協議会が仲介・斡旋)
- ・何を仕組むか?やってみよう!という積極的な姿勢が大切である。

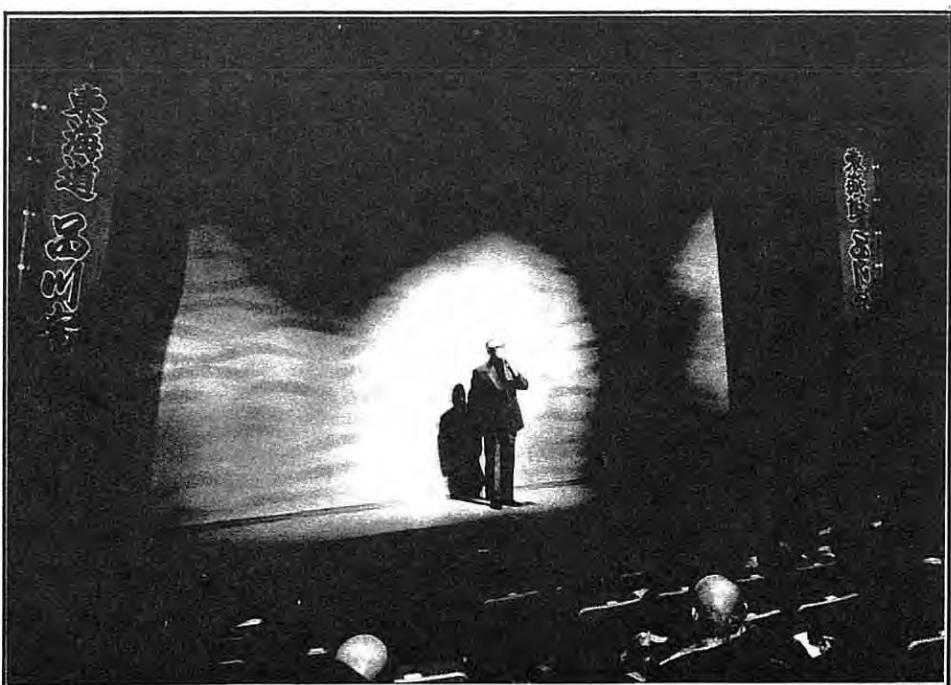
この計画は、まちの様々な施設を有効に活用してまちの文化を育てていこうというのですが、私たちは将来的に、小規模でもまちの芝居小屋をつくっていきたいと考えています。

そんな芝居小屋のイメージを下欄に表してみました。

●将来的な芝居小屋のイメージ



●外観イメージ



●内部イメージ

品川には伝統工芸が今もなお盛んで、たくさんの優れた職人がいます。わたしたちは、この伝統工芸をまちぐるみで大切に活用し、いつまでも技術が継承されていくことをのぞんでいます。

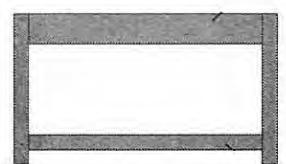
そのために、具体的にはお休み処で定期的に「伝統工芸の実演販売」を開催したり、まちなみの形成のために欠かせない看板や建物の改修やその他でできるところから彼等の技術の協力をあおぎたいと希望しています。

まちなみ活かす お休み処を中心とするまちなみ形成の要素に活用する。

看板



のれん



什器



伝統工芸を知る－実演・販売



品川らしさ、その魅力を積極的にPRしていくために、品川生まれの品川製の本当によいものをつくっていきたいと考えています。

また、「まちの宝探し」で明らかになった、品川の味・名産・特産品を気軽に味わい、買い求めることができる店の経営を考えています。これには、お休み処もモデルショップとしての活用がかかるですから、試行錯誤を重ねながらよりよいづくりを求めていきたいと考えます。

●品川グッズの開発の目標

品川グッズを守る

—現在各店舗で販売されている品川独自の商品を、品川グッズとしてさらに支援します。
具体的には包装のあり方等、商品の価値を高める工夫について示します。

新たな品川グッズをつくる

—おみやげとして売れる商品の開発・品川宿共通口ゴマークを示します。

グッズで東海道五十三次をつなぐ

—東海道53次の名産物を、通信販売などで積極的に販売展開する方法を考えます。

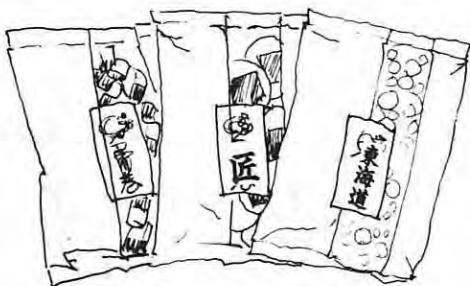
品川宿には、独自性を持った商品がたくさんあります。これらはすべて貴重な品川グッズです。私たちは今ある品川グッズをもっと積極的に PR していきたいと考えています。

現在の商品の包装を見直すだけで、品物の価値が高まります。また、「品川煮」等の食べ物やでしか扱えない品は、品川宿の料理店に波及するように働きかけ、品川宿のオリジナル料理として残していきたいと考えています。

今ある品川グッズ

- 品川のり
- 品川もち
- 品川巻
- たくあん
- 品川めし
- 品川煮（生のりの佃煮）
- 団子
- 酒

包むことを見直す



私たちは、新しいおみやげとなるような品川グッズを今後も考えていきます。これらのグッズは、おやすみ処で試験販売をしながら定着するよう、検討していきます。

新しい品川のロゴマーク

●ステッカー



●包装の時に貼るシール



●レターセット



●テレフォンカード

東海道五十三次には、多くのまちで名産・特産が数多くあります。グッズで東海道をつなぐというのは、品川グッズを全国に紹介していくとともに、東海道五十三次の各グッズをネットワークであつめ、通信販売によって相互に活性化することを目指す提案です。

これはいいかえれば、東海道という見える道に対して通信販売という新たな見えない道をつくることです。わたしたちの品川宿では、ここでもこの新しいみちすじの一番目の宿場として、東京という地の利を生かしてこのネットワークを全国に発進していきたいと考えています。

● 「東海道 グッズ53次」の構想案

1. 53次の各宿場町の名産品をネットワークを通じて調べる。
2. 通信販売のしくみを説明し、協力体制を整える。運営事務局を品川宿と他にもう1カ所設定する。
3. 53次グッズカタログの作成
4. ダイレクトメール・人づてにカタログを配布する。
5. コンピューター登録で注文及び在庫管理を行うようとする。
6. 年に数回お休み処で、交代で各地の物産展を開いたりして、広くPRするとともに各地との交流を深める。

私たちまちづくり協議会とスイスのジュネーブ市の商店街連合団体との間で1991年に友好協定が結ばれています。これは、1867年のパリ万国博覧会と1871年のウィーン万国博覧会に出展後行方不明になっていた南品川の品川寺の梵鐘が1919年にジュネーブ市のアリアナ美術館で発見され、同市から品川寺に変換されたというエピソードから始まっています。1990年、品川寺から梵鐘の変換60周年を祝い、ジュネーブ市へお礼として実物大の複製を贈呈し、それをきっかけに市と品川区との友好協定が締結されました。1994年には、公式訪問団が来区され、私たちの宿場祭りにも参加して頂きました。私たちは今後も市民レベルの国際交流を通じて品川宿の文化を育てていきたいと考えています。

また、きっかけとなった梵鐘は「平和の鐘」と言われています。私たちは、相互の友好をより深めるとともに世界平和を祈って、「平和通り」と名付けた通りを、品川宿周辺につくりたいと希望しています。

そして、平成8年には、友好5周年記念式典が計画されています。

●友好協定書



Pacte d'amitié entre les Associations de Commerçants de Genève et de Shinagawa

Nous, Président des vingt-deux associations commerçantes de Genève Centre-Ville (FEC), et Président des huit associations commerçantes du district de Shinagawa (Tokyo), souhaitons par ce pacte confirmer une relation unique, afin de renforcer nos liens à la fois commerciaux et amicaux.
Par ce document, nous nous engageons à faire tout notre possible pour faciliter dorénavant des échanges fondés sur la sympathie réciproque et le respect mutuel.

品川とジュネーブの商店街 連合団体による友好協定

私共は、それぞれ、東京都品川区の八商店街連合団体と、ジュネーブ市内の二十二商店街連合団体（FEC）の会長として、ここに両団体間のユニークな関係を確認し、商業上および友好上の絆をより一層深めることを希望します。

私共はまた、本友好協定をもとに今後、品川とジュネーブの相互理解と尊敬にもとづく交流関係を発展させるため、全力を挙げて努力することを誓います。

Signé à Genève, le soir du samedi 7 septembre 1991

1991年9月7日（土）夕、於ジュネーブ

Le Président de la FEC
ジュネーブ商店街連合代表

Jean de Toledo
(ジャン・ド・トレド)

Le Délégué Japonais
品川商店街連合代表

坂江新三

●友好協定の締結

東海道53次宿場町ネットワークとは、歴史ある東海道のまちまちが相互に情報交換を交わしながら交流を深めていくことを目的につくられています。毎年各地で大会が開かれ、それぞれのまちの活性化にむけて活発な意見交換がなされています。平成元年には、品川で第二回東海道宿場町シンポジウムが開催されました。平成7年は、保土ヶ谷で第8回の大会が開かれるこことになっています。

わたしたちの交流はまちづくりにも現れてきています。すでに、南品川1丁目の広場と2丁目の児童遊園には、わたしたちのまちづくりに深い理解を示された東海道の宿場町、浜松・三島の両市から「街道松」を寄贈して頂きました。まさに、東海道53次の交流の1歩が踏み出されたと考えています。

今後は、商業等の交流がはかれるよう、より積極的にまちまちに呼びかけていきたいと考えています。